

熊本大分兩縣知事總代

大分縣知事 田口易之

祝道路開通

都留 嶺岩

摧山穿石幾多年

直下開通大道全

朝暮往來便利境

豐肥携手古今圓

(祝は) 人皆とともにいはゝむあかたみち

けふをはしめに通ひ始めつゝ

阿蘇久住よに名も高き山の間

ゆきゝの人も殖え榮ゆらむ

以上

松崎 正紀

雄 鹿 戸 隧 道

岩手縣土木課

一、位 置

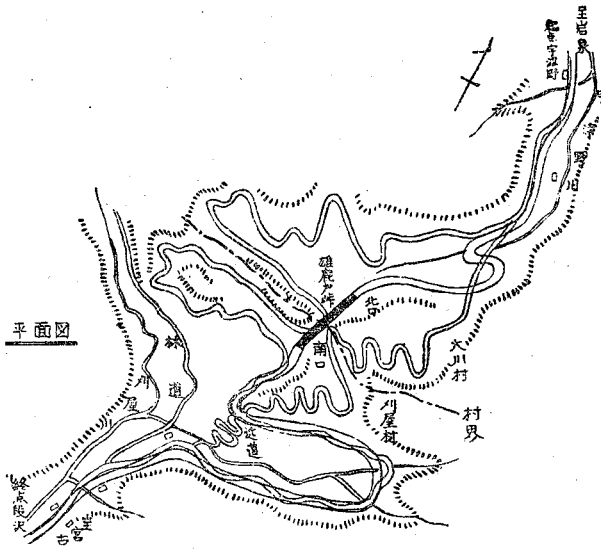
平面圖に示す如く指定府縣道十六號岩泉宮古線中の下閉伊郡大川村と同郡刈屋村との村界に介在せる雄鹿戸(押角)峠に位す。

二、設計と工費

延長五七九・七米の南北に連なる直線隧道にして勾配は

縦斷圖の如く隧道の中央より參百分之壹の兩下り勾配とせり隧道斷面は三心圓にて路幅四・五米と側溝兩側分〇・九六米を加へ、五・四六米、胴腹(即起拱線)に於て六、一八四米、中央高五、〇六五米にして内空斷面積二七、四五二平方米、掘鑿斷面積は二枚卷(四十五纏厚)三七・二〇平方米、一枚半卷(三七・八〇纏厚)三五・六二平方米、

一枚卷(二一・八〇纏厚) 三三・一四平方米、一八纏卷三



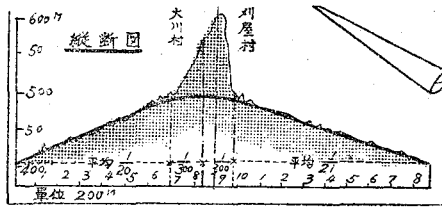
凝土を施工し、其れより混凝土「ブロック」を以て巻立、路面は一〇纏厚の混凝土鋪装を施工せり。

岩質調査は豫算並に日敷なきため「ポーリング」を行は

ず。

再三の踏査の結果石灰岩質なりと推定する事を得て地質に對しては心配無きを確めたり。

工事は豫算の關係上八年度、九年度、十年度の三年に亘り其の實施額は三六六、二三六圓にして(隧道五七九・七米、取付道路六、一六九・五米)隧道内譯は次



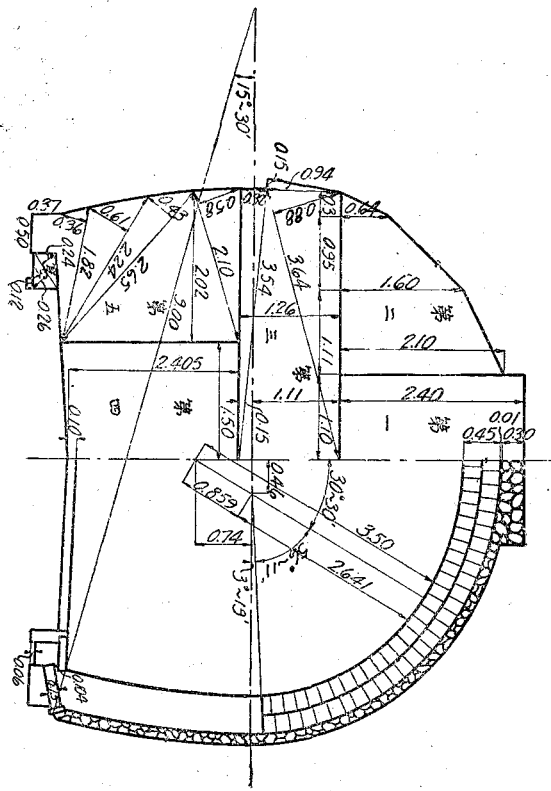
表の如し。

三、施工概況

起工は昭和八年九月六日なりしも坑口の切取のため本坑

二・六六平方米、起拱線より〇・一五三米の高さまで側壁混

雄鹿戸隧道断面圖



掘鑿断面積及一米當容積		平方米	立方米
第一	掘鑿導坑	5.28	5.28
二	丸形	6.43	6.43
三	中背	8.92	8.92
四	大背	6.85	6.85
五	土平	9.43	9.43
六	側溝	0.29	0.29
計		37.20	37.20

材料断面積及一米當容積表			
名	稱	平方米	立方米
側壁	混凝土	2.796	2.796
混凝土	ブロッケン	3.514	3.514
敷下口	流口及目地	0.903	0.903
側溝	混凝土	0.103	0.103
裏込	雜割石	2.27	2.27
側溝	蓋混凝土	0.042	0.042
拱部	排水口	0.12	0.12

工種	卷厚及金額		一枚半卷		一枚卷		計	金額	備考
	四	二	三	一	二	一			
導坑掘鑿	九四・〇	四六・〇	三二〇・〇	一一九・七	五七九・七	三九、五一七・八一	支保工を含む		
丸形掘鑿	九四・〇	四六・〇	三二〇・〇	一一九・七	五七九・七	三〇、七九八・〇八	"		
中背掘鑿	九四・〇	四六・〇	三二〇・〇	一一九・七	五七九・七	四一、七六七・三四	"		
大背掘鑿	九四・〇	四六・〇	三二〇・〇	一一九・七	五七九・七	三六、二八〇・〇九	"		
土平掘鑿	九四・〇	四六・〇	三二〇・〇	一一九・七	五七九・七	三八、五〇三・〇四	"		
側溝掘鑿						一、九八九・八八	側溝蓋を含む		
側溝コンクリート						五、五一三・五八			
側壁コンクリート	九四・〇	四六・〇	三二〇・〇	一一九・七	五七九・七	一七、二二五・六七	扶架、ステーディングを含む		
壘築工	九四・〇	四六・〇	三二〇・〇	一一九・七	五七九・七	五四、七一三・七〇			
路面舗装工						五、七九九・二九			
坑門工						六、八二九・三六			
照明費						三、二三三・〇〇			
雑工事						四、七八三・六四	事務所建設費		
取付道路						七九、二八一・五二	坑門口上の張石及砂防工		
計	南北口分					三六六、二三六・〇〇			

の施工に着手せるは南口は同年十月十三日にして、北口は 約二ヶ月餘遅れの同年十二月二十三日となりたり。北口の

遅れたるは取付道路の坑門口に達する迄の掘鑿量多きがため隧道工に早く着手することの不得策と認め、明りの分七〇米を導坑式

とし、隧道工

に着手せしめ

尙取付道路の

掘鑿は漏斗落

しの方法にて

施工し爾來晝

夜兼行にて掘

鑿を進め手掘

にて、一晝夜

最大進行南口

三・一〇米、

北口三・〇米、

最小進行南口四〇纏、北口六〇纏、一晝夜平均進行南口一

米二三二、北口一米二八一、計二米五一三の進行にて萬難

を排して、遂に昭和九年八月十一日午後十一時五十分北口より二四四・七〇米、南口より三三五米の箇所にて中心並

に高低共誤差

なく貫通せり

此の點を工區

界とせり。

四、覆工工事

側壁混凝土

は切擴げ進行

に伴ひ間隔を

置き場所詰混

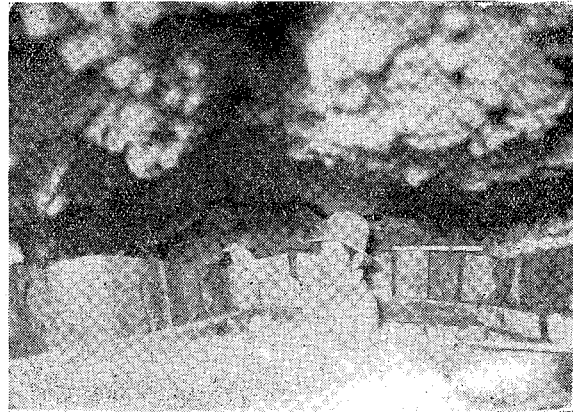
凝土を施工し

混凝土の硬化

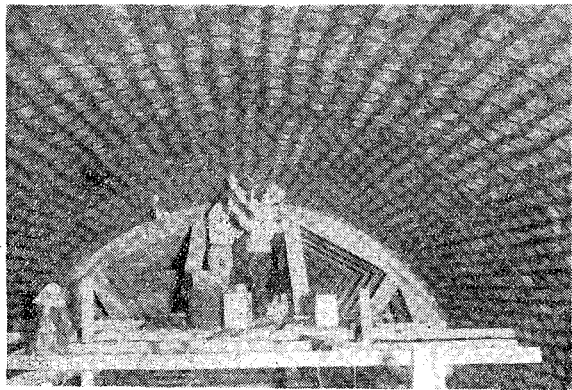
を待ち拱架を

据へ、疊築工

を施工せり。拱部は混凝土「ブロック」を使用せり。「ブロック」の大きさはA型とB型とに區別し、B型を縁切



難立作業中



中地目粧化

筒所（二十米毎）に使用し、長〇・四五六米、幅〇・一四六米、厚〇・二一八米にして、A型は長〇・三〇米、幅〇・一四六米、厚〇・二一八米のものを使用せり。

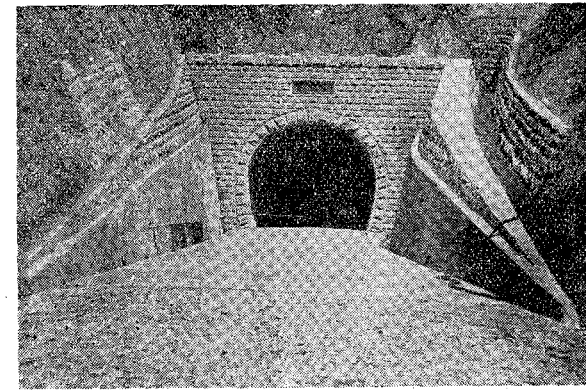
疊築工に於て拱上部の空隙を満たす雜割石の填充と目地



南口遠景

しが、二日半を普通とせり。

湧水ある筒所は疊築工施工に際し同時に漏水止工を施工



南口完成後ノ坑門口

せり。流下

「セメント」硬化を保護し且つ

水を排水口

に導くため

「セメント」

の空袋を其

の儘使用せ

るも結果面

白からざる

ため、種々

の方法を試

みたる結果

の最も成

「モルタル」並に漏水止に對し、工事施工當事者も監督員も苦慮を要せしが、約六米を限度とし、煉瓦職三名にて二日半を要せり。

然し岩質の關係に依り三日乃至四日以上要することあり

セメント」の空袋を擴げ五枚を鏡重にしたるものが最も成績良好にして漏水を見ざるまでに成功せり。

疊築工の巻終ひは昭和十年三月十六日にパツキン迫めの方法にて施工せり。

五、排水設備

兩坑門口に近き箇處の外比較的湧水少かりしが湧水ありと認めらるゝ箇處に對し排水工として側壁部に盲暗渠十四箇處を設置せり。

六、路面混凝土鋪裝

卷立並に化粧目地終了後工區界より兩口に向ひ一〇糎厚の路面混凝土鋪裝工を施工し、一〇米毎に「エラストイト」を挿入し縁切を施せり。

七、照明裝置

電氣は岩泉電氣株式會社にて大川村淺内迄點燈しあるを以て淺内より北口間一四軒を延長し、北口坑門口より坑内三〇米に至るまでケーブル線を埋設し、側溝蓋の下を通し側壁混凝土内に埋込み、起拱線附近に「スキツチ」を設置し、それより拱頂に配線をなし六〇糎間隔に碍子を埋込み架線し、兩坑口三〇米の所よりエキステリヤ燈電球六〇W

一九箇を點燈せり。

八、竣功後の新舊兩線比較

左表に示せる如く新縣道の最高通過標高に於て一二九米低く、且つ距離に於て約七、〇〇〇米の短縮を見從つて勾配或は屈曲部の緩和尙幅員擴張に依り車馬の通行に大なる便を與へたり。

新舊兩線比較

	舊縣道	新縣道	摘要
最高通過標高	六〇 <small>米</small>	五二 <small>米</small>	三元減 <small>米</small>
距離	一三、六九	六、六九	七、〇〇減
平均勾配	$\frac{1}{20}$	$\frac{1}{25}$	
最急勾配	$\frac{1}{10}$	$\frac{1}{15}$	

改良前は大川村よりの物産は全て東北本線沼宮内驛或は小本港に搬出せるも改良後は山田線茂市驛に搬出し得るを以て距離に於て半減せられ故に運賃年額約十八萬圓の節約を見るに至れり。